

# 若いなかま

若いなかま No.194

2015(平成27)年 11月15日 発行

発行 (公社)福岡県青少年育成県民会議  
〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番50号  
吉塚合同庁舎6F  
TEL(092)643-6001 FAX(092)643-6003  
E-mail : net.y.d@isis.ocn.ne.jp  
ホームページ : http://www.fayd.jp/



## 目次

第37回 少年の主張 福岡県大会 …… 2・3	家庭の日・オアシス運動 …… 6
第17回 福岡県青少年囲碁大会 …… 4	地域の話題 …… 7
異年齢交流で育て！ 青少年(キャンプ) …… 1・5	青少年育成“考”、その他 …… 8

### (公益社団法人)福岡県青少年育成県民会議は、

青少年問題の重要性にかんがみ、広く県民の総意を結集し、国や県の施策に呼応して、総合的な運動を展開し、将来を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に昭和41年12月13日に結成されました。  
(昭和45年 社団法人。平成25年4月1日公益社団法人に移行となる。)



わたしの主張  
2015

# 第37回少年の主張福岡県大会

～今、中学生が訴えたいこと～

とき 平成27年8月29日(土)

ところ 岡垣サンリーアイ



今回の開催地「岡垣町」は、福岡と九州の中間に位置している。ウミガメが上陸する三里松原の美しい海に面し、県下生産量第1位を誇る高倉びわの産地としても有名である。

開催当日は、数日前に九州を直撃した大型台風15号により、予定していた会場ホール屋根が被害を受け、施設内のアリーナに変更となったが、急遽、関係者により設えた600の椅子席は、開場と同時に地元来場者で満席となった。

開会にあたり、主催者の(公社)福岡県青少年育成県民会議の右田喜章会長、開催地を代表して、岡垣町青少年健全育成町民会議の米倉正廣会長の挨拶に続き、

## 講評

審査委員長  
蒲原由和

今年も多くの力作に出会え、大会では活字による事前審査とは違った15名のみなさんの「言葉の力」「表現の力」に圧倒されました。

審査はいくつかの基準をクリアしたうえで、型どおりでない等身大の言葉と感性で、聴く人の共感を得られるかに注目しました。主張は、借り物でない自分自身の言葉を積み重ねる努力が求められます。パターン化した考えをすんなり受け入れるものでなく、「なぜ必要か」「なぜ大切か」を掘り下げ、「今、本当に訴えたいことか」考え、吟味する必要があります。

県知事賞に選ばれた馬場崎文音さんの主張は、日々の出来事をつぶさに振り返り、周囲の言葉に耳を澄まし、自問自答することで恵まれない環境をも前向きに考える姿勢が審査委員の共感を得ました。

戦後70年、国家や憲法の在り方が問われ、原発、オリンピック、いじめによる自殺など様々なキーワードに直面した皆さんにとって、どれも深く考え自問自答すべきテーマです。

選挙権が18歳に引き下げられ、中学生が担う義務と選択はすぐそこに迫っています。感性を磨き考える力をつけるためにも、思いを「主張」というコラムにする習慣を身につけてはいかがでしょう。(抜粋)

小川洋福岡県知事の「我々大人にとって子どもたちの生の声が聞こえる貴重な時間である」とメッセージ(代読)を戴いた。

司会は、岡垣町立岡垣中学校・岡垣東中学校の生徒会役員と、岡垣手話の会による手話通訳の協力で進められた。

今大会への応募は昨年を上回る約1万3千点。その中から各地区や学校での選抜を経て、311点のうち審査委員会において厳正に審査された15点が発表された。それぞれの個性で真摯に語りかける言葉に、来場者は熱心に聴き入った。また、審査の間、岡垣中学校吹奏楽部による演奏は緊張した会場の空気を瞬時に和らげ、同時に、同年代の発表者へエールを送るかのように爽やかであった。

審査の結果、県知事賞、教育委員会賞、優秀賞第1席、審査委員会特別賞の4名、優秀賞11名が選ばれた。

県知事賞は「人は愛の中で生きている」を発表した飯塚第1中学校3年の馬場崎文音さん。11月8日、東京都で開催される「少年の主張全国大会」に福岡県代表として推薦され、全国大会出場が決定した。

## 優秀賞受賞者

(発表順)

氏名	題名	市町村名	学校名	学年
鳥井 風香	私の武器	飯塚市	飯塚日新館中学校	2年
上田 遥	命の重さ	宇美町	宇美中学校	1年
坂口 夏海	ありがとう～心から～	飯塚市	飯塚第1中学校	3年
石井 杏奈	家族の絆	飯塚市	嘉穂高等学校附属中学校	1年
中島 璃音	平和という道を歩こう	田川市	金川中学校	3年
小栗 琴音	心をみがいて	田川市	中央中学校	3年
池田 佳音	自分にできること	飯塚市	飯塚日新館中学校	3年
福田 美優	母に感謝	行橋市	立長峡中学校	2年
山本 菜月	チャレンジド・ピープル	中間市	中間北中学校	3年
久留愛弥子	つながり	岡垣町	岡垣中学校	1年
立石すみれ	今、未来を考える	飯塚市	穂波西中学校	3年



余白

余白



飯塚市立  
鎮西中学校3年  
城丸龍汰  
しろ まる りゅう た

「夢追いかけて―父と共に歩む道―」

教育委員会賞



中間市立  
中間東中学校3年  
村松万里子

「食でつながる「コミュニケーション」」

優秀賞第1席



福岡県立  
久留米聴覚特別支援学校中学部3年  
橋本菜那  
はしもと かな

「MY DREAM」

審査委員会特別賞



# 第17回 福岡県青少年囲碁大会

とき 平成27年8月23日(日)  
ところ 福岡県吉塚合同庁舎

第17回福岡県青少年囲碁大会が、福岡市博多区の福岡県吉塚合同庁舎で203名(碁会所の指導者等も含む)が参加のもと開催された。

大会は子どもたちの熱気に包まれ、白熱した対局の表情は真剣そのもの、本大会での交流を通して、囲碁の楽しさや面白さに触れるとともに、多くの仲間たちとの友情の輪が広がった。

本大会は「県知事杯争奪戦」「異年齢交流対戦」「ふれあい囲碁教室」「プロ棋士による多面打ち」「安田泰敏九段による講演会」と一日盛り沢山の熱気あふれた大会でした。

最初に主催者を代表して、蒲原由和大会実行委員長は「囲碁という頭脳ゲームには様々な効果があり、集中力が身に付き想像力を広げ、発想が豊かになるなどの効用がある。大学でも5年程前から単位が取れる講座が関東地方から開設され、九州大学でも「囲碁で養う考える力」という名の講座が、

九州で初めて開設される。また武道と同様に礼儀作法が身につく、囲碁仲間との再会や交流を図り、共通の趣味が取り持つ友達づくりにも励んでいただきたい」とエールを送った。



第17回 福岡県青少年囲碁大会

○異年齢交流対戦は、参加者が最も多く、ふれあい交流の場であり、高校生から幼稚園児まで年齢に関係なく対局した。初めての参加者を含め、今年も85名が挑戦、この囲碁交流でこれからも楽しんで続ける仲間が増えることでしょう。

成績優秀者には県知事奨励賞と、級位認定状が授与された。

○ふれあい囲碁教室は、30名の参加、囲碁をこれから始める子ども達を対象に保護者を交えて早速対局が始まった。

両親と小郡市から参加の山下敬太君(5歳)は裕太君(小郡市三国小5年)稜太君(同小2年)とともに争奪戦・交流対戦に出場しているお兄ちゃん達を見て、囲碁に興味を持ち、この教室に参加し、今日はたくさん対戦したチャンピオンに。記念の色紙が贈られ、これを機会に来年も参加し、今後は交流対戦に出場したいと目を輝かせていた。

その後地域の指導者や保護者に対し、安田九

段は、自分の体験や生い立ちを交えて、囲碁の素晴らしさや、囲碁を通して出会った事などを語り「子ども達は多くの可能性を秘めているので、囲碁を好きになる事を大切にしてほしい」と話した。

○プロ棋士による多面打ちコーナーは、安田プロが多数の子ども達と同時に対局し、次々に打っていく囲碁であり、14名の豆棋士が参加、対局後安田九段から一人ずつ丁寧な指導を受け、プロの凄さを実感していた。

○県知事杯争奪戦は、小学生19名、中学生14名、高校生10名の43名が参加。午前10時から長丁場の対局時の表情は真剣そのもの。今年も白熱した対局が展開され、各部の成績優秀者は、来年3月「中国江蘇省青少年囲碁交流大会」に福岡県代表の選考対象となる。

毎年、朝日アマチュア囲碁名人戦全国大会が東京都千代田区の日本棋院会館で、二日間の日程で開かれている。近年若者が多数出場しており、最年少は中学生もいる。

体力的には、若手有利といえるが、精神力の持続には経験がものをいふと言われている。福岡県青少年囲碁大会出場者から、地方大会で勝ち抜いて出場し、名人となることを期待したい。



親子で囲碁を楽しむ様子

## 第17回福岡県青少年囲碁大会 知事杯争奪戦 対戦結果

小学生の部			中学生の部			高校生の部		
優勝	出口 稜真	豊津小4年	優勝	佐々木 柊真	九国附属中2年	優勝	木下龍太郎	筑紫学園高校1年
準優勝	小寺 夏海	赤坂小5年	準優勝	三輪真之祐	津屋崎中1年	準優勝	波多野寛太	修猷館高校2年
3位	永瀨 凌久	鳥飼小6年	3位	木村啓太郎	合岩中2年	3位	原田布由樹	筑紫丘高校1年

FFG ふくおかフィナンシャルグループ

あなたのいちばんに。

福岡銀行





# 異年齢交流で育て！青少年

「自ら 学ぼう！ 育とう！」

ジュニアリーダー育成キャンプII

と き：平成27年8月5日(水)～9日(日)

と ころ：国立諫早青少年自然の家

本年度は、昨年度までの小・中学生を中心とした「健全育成のプログラム」(名称、小・中・高校生などをつなぎ、育てる野外学習)に加え、高校生、大学生年齢等も対象にした「リーダー育成のプログラム」を実施しました。(名称「異年齢交流で育て！青少年」)。

キャンプには、小学5年生から中学3年生の参加者62名と高校生7名、大学生等7名、大人スタッフ12名(看護師2名、事務局1名)の88名が参加し、日頃体験できない野外炊飯、沢登り、登山等の活動と集団生活(社会生活)を通して、達成感や成就感を体験しました。今回は、プログラムで人気のあった「野外炊飯」「沢登り」「登山」を報告します。

野外炊飯は、班員を「調理・配給係」「薪係」「配膳・後片づけ係」「洗い場係」の四つの役割に分けて行います。野外炊飯は6回あり(内洋食が2回)、全員が最低1度は各係を体験します。食材を包丁で調理し、薪を割って火をおこし、煮炊きを行う。油断するとご飯が焦げてしまい、味付けも数名で確認しながら行いました。配膳は皆の分を確認し盛りつけを行いました。楽しく食べた後も後片づけがあります。食器類を洗い場まで下げて、洗い、水滴がないように拭き、

号人数分の食器を確認し、次の炊飯に準備する。残飯の処理も自分たちで行い、洗い場も常に綺麗にしておかなければなりません。子ども達は回数を重ねる

毎に作業も上手く速くなり、経験する事、助け合う事が自分達の生活を「楽しく」させてくれる事も学びました。そして、一番学んだ事は、自分達が「家族にお世話になり、守られて生活を送っている事」「沢山の文明の恩恵を受けている事」に気づいたことでした。家族や社会に「感謝する」気持ちをもつことができました。

沢登りの川は、山中を流れているので冷たく綺麗でした。しかし、大きな石や岩が行く手を次々と阻み、時には、約6メートルの岩を水の流れに逆らって登りました。いつの間にか、班員達は「石があるよ」とか「引っ張ってあげて」「大丈夫」「こっちの(ルートの方)の方が良いよ」等と年齢や男女に関係なく、声を掛け合い、助け合い、支えながら沢を登っていました。約1時間後、直径約150センチ、長さ約30メートルの足元に水が流れるトンネルを抜けると、まるで地底から地上に出たかと錯覚するような明るく開放感に満たされたゴールの場所に到着しました。仲間が声をかけてくれる嬉しさ、手をささげる優しさ、そのすべてが、男女も関係なく助け合える素直さ等を学び、最後までやり遂げた達成感や成就感に浸ることが出来ました。

登山は、標高1057Mの五家原岳にチャレンジしました。朝八時、快晴で気温が高くなる予報のため、一時間早めの登山開始でした。キャンプ村から急坂の林の中を



とりながら約1時間30分登ったところで、緩やかな道になり、一気に展望が開け、有明海が見えるところまで来ました。さらに、我慢強く30分近く登ると山頂に到着。「やったー！着いたー！」山頂からの景色は、有明海、大村湾、橘湾が見える絶景でした。

山頂まで頑張った子ども達は「頑張った良かったー！」「苦しかったから、この景色を見るのが出来た」等、困難を克服した後の喜びをかみしめていました。子ども達は、苦しさから最後まで逃げず、困難を克服した喜びと絶景を体験の褒美としていました。

参加した子ども達からは、「家庭や地域、学校では学習できない事を学んだ。これからの自分の行動に生かしたい」「来年も参加して、もっと、学校以外の友達を作りたい」「高校生リーダーになりたい」等の声を聞いた。参加者の皆さんは、この経験は、必ずこれからの生活に役に立つことでしょう。お疲れ様でした。



# 「家庭の日」・「オアシス運動」

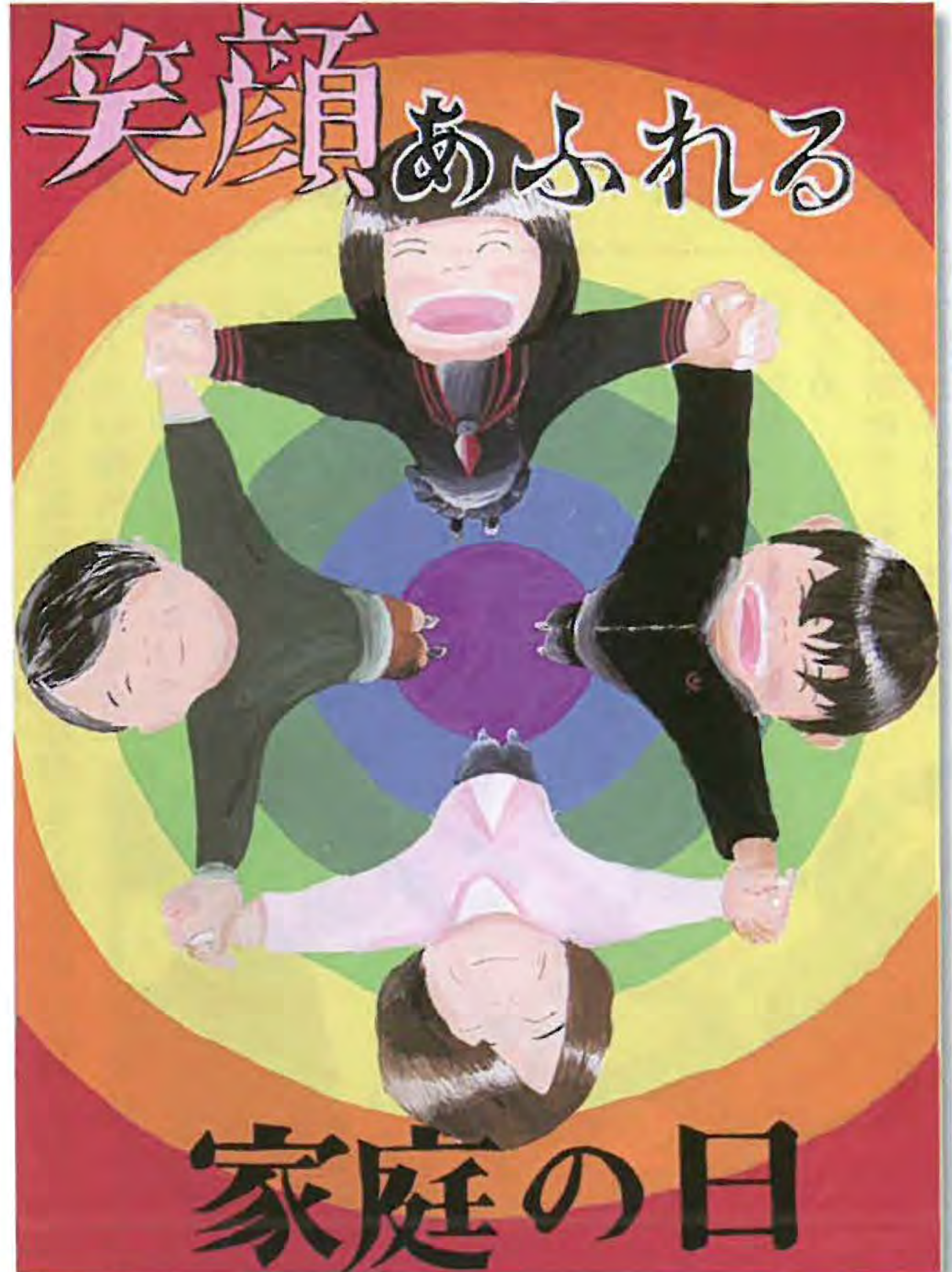
「家庭の日」・「オアシス運動」とは、

家庭は子どもたちの生活の土台であり、社会で生きるための基本を身につける大切な場であることから、毎月第3日曜日を「家庭の日」とし、その重要性を考えよう。

社会生活において基本となる4つの挨拶をしっかりとしよう。(オハヨウゴザイマス・アリガトウゴザイマス・シツレイシマス・スミマセン) というものです。

この運動の普及のため、今年もポスター及び作文を募集したところ、888点もの優れた作品の応募がありました。入賞作品を紹介します。

## ポスターの部 最優秀賞



宗像市立河東中学校3年  
古賀 美陽子

## 作文の部 最優秀賞

### お母さんとわたし

みやま市立大江小学校  
四年 津村 凛

私のお母さんはいつも笑っています。学校から帰ると、事む所でお仕事をしているお母さんに「ただいま」と元気に言うとおかえり」と、いつも笑顔で私に近づいてきて、ギュッとだきしめてくれます。どんなにお客さんがいても、だきしめてくれます。私はお母さんにだきしめられると、ほっとします。

そんなやさしいお母さんなのに、私はすごく反こうしてしまいました。お母さんに

もんくを言って、部屋の中に入って、一人でおこっていました。すると部屋のとびらが少し開いて、一通の手紙がとどきました。

「大好きな凛へ

凛が今おこっているのは、ママをきらいになったんじゃないって、お母さんは分かっているからね。今凛は反こう期っていつて、反こうしたくなる時期なんだよ。少しずつ大人になっていってると事だよ。どんな事があっても、お母さんは凛の味方だからね。大好きだよ。最後に：凛の反こう期が終わったらお母さんに教えてね。」

と手紙に書いてありました。その手紙を読んだ、なみだが出てきました。私は、お母さんに返事を書きました。

「大好きなお母さんへ  
お手紙ありがとう。お母さんは何も悪く

ないのに、あんなひどい事言つてごめんね。反こう期って、いつ終わるのか分からないけど、終わったらすぐ言うね。いつもおいしいごはんを作ってくれて、ありがとう。どこのお店のよりもお母さんのごはんがおいしいよ。お母さんいつもありがとう。」

と書いて、そっとキッチンに置きました。

私のお母さんは、私に何かあるたびに向き合ってくれて、たくさん話を聞いてくれます。そして今何を考え、どう思っているか、他のだれよりも一番私の気もちを分かってくれています。お母さん、私のお母さんでよかったよ。

## 家庭の日・オアシス運動 作文・ポスター優秀賞

### 作文の部

柳川市	藤吉小学校1年生	鶴	百々果
大野城市	御笠の森小学校5年生	山	川 菜 央
みやま市	開小学校5年生	松	村 勇 弥
小郡市	三国中学校1年生	山	科 結 衣
芦屋町	芦屋中学校1年生	片	山 歩 武

### ポスターの部

柳川市	垂見小学校1年生	宿	利 実 生
遠賀町	島門小学校5年生	太	田 遙 音
宗像市	河東中学校2年生	松	浦 優 希 子
遠賀町	遠賀中学校2年生	井	口 美 紀
芦屋町	芦屋中学校2年生	松	永 一 真





## 地域の話題

＜各地の市町村民会議の活動を紹介するコーナー＞  
 今回は北九州市、福津市、大牟田市の3市の活動を紹介します。  
 それぞれの地域の特徴ある活動は非常に興味深いものがあります。  
 参考になれば幸いです。

### 第27回青少年健全育成 毛筆書写及び 第63回青少年育成 標語作品展

大牟田市少年センター

大牟田市では11月の「子ども・若者育成支援強調月間」にあわせて「青少年健全育成毛筆書写・標語作品展」を開催しています。この作品展は児童・生徒の作品を通し青少年の非行防止及び健全育成に対する理解と意識の向上を図ることを目的に年1回実施しており、毛筆書写は27回目、標語は63回目となります。今年度は11月18日(水)から25日(木)迄、ゆめタウン大牟田にて開催します。昨年は毛筆書写が198点、標語は123点の応募がありました。毛筆書写・標語ともに応募された

全作品を展示します。ぜひご鑑賞ください。



### リーダーになって帰ってくる青年たち

北九州市青少年育成市民会議

北九州市青少年育成市民会議では、春休みと夏休みの年2回、小4から中3を対象にキャンプを開催しています。春は主に神戸へ行き、あらゆる体験活動を、夏は外国人の学生と英会話のみで過ごすどちらも特色あるキャンプです。期間中は班ごとに大学生を中心としたボランティアのリーダーがいますが、実は小・中学生の頃に自らがキャンプに参加して親身にお世話をしてくれたお兄さんお姉さんに憧れてリーダーとして参加する学生が少なくありません。このような青年が増えることが町の

明るい未来に繋がればと地道な活動を広げています。



### 三中学校合同の ボランティア活動

福津市青少年育成市民の会

福津市の市民花火大会は会場から打ち上げられた花火を砂浜から見上げることができ、空から降ってくるように迫力満点です。

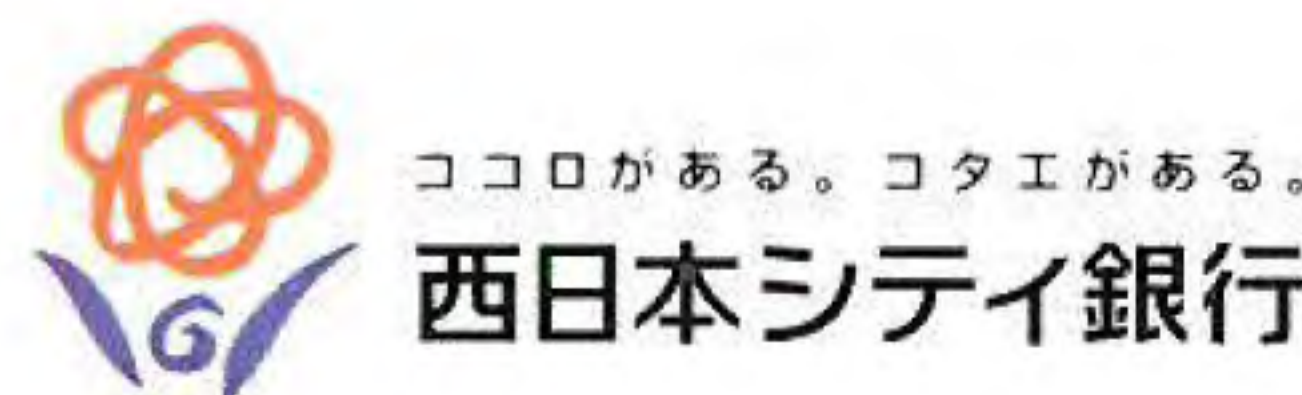
ただ、翌日の海岸にはごみが散乱！この状況を見た福間中学校生徒会の皆さんが、市内の中学校に呼びかけて海岸清掃のボランティア活動が始まりました。

三年目を迎えた今年度は夏休みの早朝にもかかわらず福間中・福真東中・津屋崎中の生徒約500人が地域の方々と海岸清掃活動を行いました。地域を愛するこの素晴らしい活動が継続されていくことを願っています。

福中315人・東中125人  
 津中60人が参加



いつもそこに、いつでもそばに。





# 事務局だより

主な行事(H27年7月16日～11月15日)

- 7月 18日(土)県アド連総会
- 22日(水)青連協常任委員会  
(以降、8/26、9/18、10/27)
- 24日(金)少年の主張第一次審査  
(以降、第二次審査8/7)
- 27日(月)第6回広報部会  
(以降、9/8、10/6、10/19、10/26、11/4、11/16)

- 8月 3日(月)第2回青少年囲碁大会実行委員会
- 5日(水)～9日(日)「育成キャンプ」
- 23日(日)県青少年囲碁大会
- 29日(土)少年の主張県大会

- 9月 16日(水)九州・沖縄ブロック研修会
- 10月 3日(土)～4日(日)青連協青年リーダー養成事業
- 5日(月)第2回家庭部会
- 7日(水)九州地区会議

- 「家庭の日」「オアシス運動」
- ポスター審査
- 19日(月)アドバイザー連絡会理事会
- さわやかマラソン大会
- 第3回事務局会議  
(以降、11/13)

- 11月 29日(木)第3回総務部会
- 第6回健全育成部会

- 7日(土)～8日(日)青連協
- ジュニアリーダー養成事業
- 8日(日)少年の主張全国大会

新賛助会員(H27年10月 日現在)

個人賛助会員  
猪瀬 正典 (糟屋郡宇美町)

## 赤い羽根共同募金



高齢者、障害者、子どもたちなどへの地域の福祉活動を支援します。災害時には「災害ボランティアセンター」の設置や運営にも役立ちます。

この広報紙は、共同募金の配分を受けて発行しています。

## 青少年育成 考



### 「子どもたちの夢」

福岡県青少年育成県民会議理事・広報部長 馬場京子

子どもたちの夢はその時代を反映すると言われる。年代によって多少の差はあるが、小学生の男の子の夢はスポーツ選手が圧倒的に多い。サッカー選手や野球選手がその筆頭である。近年ではテニスも注目度が高く、また先のラグビーW杯イングランド大会で歴史的勝利を収めた「桜の戦士」の活躍でラグビーも人気上昇中と聞く。4年後日本開催時にはラグビーがランキング上位を占めているかもしれない。そんな折、今年、8月29日に岡垣町で開催された少年の主張大会で教育委員会賞を受賞した城丸龍汰君の夢(タイトル「夢を追いかけて―父と共に歩む道」)を思い出した。農家の長男で一人っ子である本人が農業を継ぎたいという夢を語った。父親の手伝いをしながら、農業の抱える課題にも向き合い、なおかつ、父親に対する尊敬とあこがれの主張は心温まるものだった。トラクタ

ーやコンバインを操る巧みな技は、カッコいいと語る。子どもたちの夢の要素は、まずその仕事が好きであること、あこがれ・魅力的であること、卓越した技と尊敬の気持ちなどが挙げられる。夢の実現には「意識の習慣化」が一番大きいと言う。客観的にみると、龍汰君は日常の中で無意識に夢の実現に向けて様々な条件をクリアしていると言える。彼の主張の最後に、「僕の夢を応援してください」と結んだ。もちろんもろ手を挙げて応援したいが我々大人が応援できることは何なのか?言葉では「応援しています・頑張ってください」は言える。子どもたちの夢は大人にとっても夢であり、希望である。今、自分のできることを考えてみると、県民会議の広報という立場で、その立場を十分に活用し子どもたちの夢や情報を伝えることが応援になればと思う。

## 編集後記

今号は、「少年の主張県大会」「育成キャンプ」「県青少年囲碁大会」「家庭の日・オアシス運動」の作文・ポスター募集結果等について掲載しました。広報紙に子ども達の活動写真が載るのは、何となく興味をそそり、読んでみようと言う気持ちがあわくらしく、いつも11月15日発行号は残部が無くなりま

す。今回も是非読んで頂き、感想なども頂けるとありがたいです。広報部会もできるだけ子ども達の活動を伝えるために、これからも工夫していきたいと思

事務局 田中 信

### 青少年の健全育成のために

### 賛助会員入会のお願い

次代を担う青少年の健全育成を図るため、県民会議は、少年の主張大会、野外学習、マラソン大会など、様々な活動をしています。

県民会議では、賛助会員の募集を行っています。会費は左のとおりです。電話(092-643-6001) いただければ、資料をお送りいたします。

#### 賛助会員の年会費

- 個人 1口 1,000円
- 法人又は団体 1口 15,000円
- 特別賛助会員 1口 50,000円

#### 納入いただく方法

会費は、公益社団法人福岡県青少年育成県民会議の次のいずれかの口座に納入していただくか、県民会議事務局に直接ご持参ください。

- 西日本シティ銀行千代町支店(普通預金) 3053033
- 福岡銀行県庁内支店(普通預金) 526475
- 筑邦銀行福岡支店(普通預金) 1597091
- 福岡中央銀行本店(普通預金) 1030569
- 県庁内郵便局郵便為替口座 福岡 01700-5-4057



この用紙は、森林資源保護のため再生紙を使っています。